

晴れてよし（山岡鉄舟）

解説 幕臣、山岡鉄舟が宮中に仕えていた頃に詠んだ歌。

無私無欲の清廉な生き方を貫き通した鉄舟も、徳川家に仕える身でありながら明治天皇の臣下となったということで、陰口を叩かれることもあったという。自らすすんでの宮仕えではないにせよ、真摯に職務を全うしていたところへのいわれのない、誹謗中傷である。さすがの鉄舟も言うに言われぬ胸の内があったにちがいない。

晴れて　よし　曇りても　よし　富士の　山

もとの　姿は　変ら　ざりけり

通釈 富士山は晴れた日も、曇った日も、変わることなく爽やかに気高く聳えている。